

## 関宿年譜 (下)

### 藩主久世広明の動向について

中村正己

#### 関宿年譜 (下) 概要について

本号で取り上げた関宿年譜 (下) は、江戸幕府の中で藩主久世広明が寺社奉行を経て老中職とも言える大阪城代並びに京都所司代の最高地位にあった明和四年 (一七六七) より安永九年 (一七八〇) に至るまでの間の史料である。

大坂はもとより豊臣家の本拠地であつたというだけでなく、古くから経済上の重要地域であつた。また、遠い東国江戸から常時監視を怠ることの出来ない軍事、政治上の要地であつたと同時に外様大名の多い西国諸藩の動静を観察する重要な地でもあつた。この様に幕藩体制の政務統括を趣旨として大坂城代の職制が設けられた。

元和元年 (一六一五) 大坂落城後、本城主は伊勢亀山藩松平忠明が五万石の加増を以て入封。五年後に大和郡山に移封。以後幕府直轄地となり、伏見城代内藤信正が転封し大坂城代に赴任したのが始まりである。明治元年 (一八六八) 最後の城代牧野貞明迄の二百五十年間に亘り、七十名の大名が城代を勤めている。藩主広明は初代から数えて三十九代目の補職であつた。

城代は、將軍直屬機関で日常の役割は、大坂町奉行、堺町奉行の監督指揮と同時に西国三十余国の幕政関連事項を処理裁断をおこなう権限を持った。幕府からの選任は原則として、五万石以上の譜代大名で奏者番、寺社奉行を勤めた実務経験者が補職された。任期は、承応期から寛文初期までは三年或いは一年の交代制をとつたことがある他は定制はなかつた。藩主広明は明和六年 (一七六九) 九月より安永六年 (一七七七) 九月までの長期に亘り職を勤めた。

年譜によると、寺社奉行広明は將軍家重公七回忌法会を勘定奉行伊奈忠宥共に増上寺で務めた後補職された。

補職された広明は、將軍家治公より冬物の熨斗目、服紗、夏物の染帷子、麻上下、法衣類に関する時服二十領、馬一匹、相模国広次の御刀を賜う。同時に赴任の為の引越拝借金として金一万兩の恩借する。

城代在職中は関宿所領の陸奥、下野、常陸、下総の四国については遠国に付き、近国の河内、美作両国に引替えと同時に関宿城は堀田相模守正順が守衛する。広明は將軍家治公に引替えの御礼として正月節には寒塩鯛、三月節は塩鴨、土用中は葛粉、十月に串海鼠、寒中は串鮑を献上している。旧領地と関宿城は、安政三年 (一七七四) に再び関宿の地に復帰することとなつた。この時士分屋敷の修復の為金五千兩の恩借を受けている。

この間、將軍家治の日光社参度々執り行われ、社参に關係した諸大名が関宿、境の宿駅に休伯し干饅餉や、塩鴨を進上している。広明嫡子広蒼も社参に詣で父に代わり関宿在城の命を受けた。城代の任を果した広明は、直ちに京都所司代として転免し、天明元年 (一七八一) 閏五月まで補職となる。

一方京都所司代は、大坂城代と並び幕府の西国経営の一大拠点であつた。朝廷に関する一切の政務を掌握し、公卿を監督し訴訟の処理と寺社の支配をおこなつた。配下には与力や同心が付けられた。城内の席は、重臣中の重臣が詰める間「溜之間」であつた。

広明は所司代の命を仰せ付けられ、貞行御刀、時服五領、羽織一領、黄金二十枚、馬一匹を下賜。京都御所に参内した後桃園天皇に「龍顔を拝し、天盃を賜」天皇崩御の折には参列し、香火物を献上。遺物として八景の画伯及び花瓶、花台を賜う。

広明の京に於いての即位をはじめとし、転任等の大礼が続く中、所領関宿の地は度重なる洪水が続き損耗甚だしく藩財政窮状を救う為、安永九年幕府

より金五千兩恩借する。

また年譜は、藩士達の江戸、大坂、京都在番に拠るところの引越及び加増仰付をはじめとし、広明諸子の誕生、久世公家中と関係諸大名の逝去に関する事項そして災難や様々な諸事件が記されている。災難では明和九年（一七七二）安永元改元）江戸芝白金辺より出火による大火、明和七年江戸深川邸、安永七年（一七七八）北新堀邸の類焼。この時「関宿領分出火之節組付人足定」が定められた。

諸事件では、一例を挙げると三田八幡神社夏祭り祭礼神輿渡御における喧嘩一件については寺社奉行広明が裁許する。他に殺傷、紛失、出奔、盗難等に付入牢、家財没収後追放の身にあつた者が示されている。

更に、広明祖父重之の弟重勝の嫡子久世広民（一七三二—没年不明）、幼名政吉、後平九郎が浦賀奉行、長崎奉行で外国貿易の管理、キリシタン禁制、外国使節の応接の役の命にあつたことも触れられている。

明和四丁亥

○正月十一日土屋半兵衛御出入扶持三口被下

○同月十五日芦田伊十郎父子差扣御免、於大久保沢右衛門宅申渡

○此度関東川二御普請御手伝松平陸奥守様、松平安芸守様被仰付

○二月廿八日去年中信太郡八ヶ村之者共大勢江戸迄願筋申立相越不届至極二付、頭取之者吟味之上今日入牢申付

○三月十四日御城新御居間向并御広敷迄取払、新御居間二間八追而江戸表へ可差遣旨元々申渡、五月朔日舟二而遣

五月二日前日御奉書到来御登城之処、来六日惇信院様七回御忌御法事御用懸被蒙仰

○六月八日御関所御破損繕出来本番所へ引移

同月廿三日小野日向守様、伊奈備前守様へ丹羽十郎右衛門被召呼、関宿御城詰御用米有高六百九十石餘之内六百石、来六月十日迄二浅草御蔵へ可相納旨於御勘定所被仰渡、尤代金御渡被候間近而代米買上詰置候様

六月七日殿様此度御用懸り付於 御座之間 御目見被為蒙 上意

同月八日より増上寺江御詰九日、十日内

六月十日御用米之内千五百俵浅草御蔵へ納御用番江御届

同月十五日此度御用懸無御滞御勤被成候二付、於御座之間、御目見被蒙 上意

同月十八日前日御奉書到来御登城之処、御時服口御拝領

同月廿四日卯上刻女中しか出産於長殿御出生御産穢御届

御記録八廿一日トアリ

閏九月十日万石以上家二四品有之面々並家督諸太夫被仰付候年月名乗當時之分迄認出、殿様御書付到来今日御差出

○十月水戸様御舟御関所通船之節、人相改中二而も水主斗陸へ上り、御船頭八不上候旨、尤名前書付兼而御関所へ差出置候筈相究、舟方御役人皆川弥六ト申者名印二而書付到来

○十二月廿一日土屋半兵衛二口御加持

○同月今年御拝増御返還被成下筈之処、去戌年四度之洪水其外

○御損毛夥數必至御差支二付、無是非去年之通御物成被成下候旨一統へ申渡

○十二月廿六日荒堀喜又新知七十石被下

○同月同日高橋五郎右衛門、田中源左衛門、荒堀喜又、鈴木仲右衛門四人猶又来年より残而三ヶ年之内御儉約懸り被仰付、其筋之儀八品々寄御直二も申上候様被仰付

○納辻米一万六千拾式石四斗三合七勺七才、此俵四万三千六十俵老分四り六毛、永八千九十式貫式百六十七文六リン

明和五戊子

旧冬廿六日勘定頭兼帯役之儀二付、大久保沢右衛門月番迄申渡間違有之不調法至極二付御役願書差出候外同列衆も差扣之儀奉伺候処不及其儀旨被仰出、沢右衛門願書八御戻

○三月十二日御省略二付御府外番所中間番相止、同内番所足輕泊番是又相止、外番所へ足輕二人ツツ御泊致、夜廻り舟答致候様物頭へ申渡

○六月朔日以来町組之者町廻之節杖突候儀相止、十手為指一統塗笠為被候様町奉行へ申渡

○七月十八日於中之出水稽古之節山口倉太、小田部隅治溺死

○同月十七日伊藤半右衛門儉約掛り被仰付

○同月廿九日河合隼太実母寢病引之儀承由

八月十五日三田八幡祭礼二付為廻鷹野大助、神田与惣兵衛同心召連罷越候処、殊之外込合候二付同心兩人神輿之先へ立入テ払候処、細川越中守様水打中間十手二而被打候与存候哉逃込候、越中守様辻番足輕召出十手ヲ留二懸り候二付取合候処、立固拾人之鍬持、鍬二而同心ヲ払候故、少々頭へ疵付候二付、右同心付込三人之足輕相手取候処、其内与惣兵衛罷越、細川様御留守居下役へ懸合疵付候同心辻番所へ預置罷帰相届候二付、達御聴細川様、細川様御留守居中川郡兵衛へ木下此右衛門対談之上右同心ハ此方へ引取、右御吟味之儀御用番松平周防守様へ被仰立、町奉行所依田豊前守様御懸り御吟味有之

○九月廿一日御家中妻子江戸表へ差遣候節指置証文願方之儀差遣候前日之願書差出候様申渡

十月十七日松平肥前守様奥様御病死、殿様御実母方御祖母之御続半減之御忌服二而十日、四十五日

○町奉行十一月朔日相伺二ハ御鷹匠衆御城下相通節大工町近所二而御鷹合候儀も有之由、若御鷹別羽候而御城内へ入候節御鷹匠衆御這入候而相尋度旨申聞候ハバ如何可仕哉之段申出候二付、江戸へ相談之上不苦候間入候様申渡

十二月十二日表女中高安産於千殿御生御届

○十二月廿四日来年より御家中御物成三十俵以上半知可仰付、是迄月々御貸米相止、正月より人別扶持被成下尤五ヶ年之間と被仰出

○納辻米一万五千七百七十式石三斗六合七勺七才、此俵四万六百三十拾六俵三分八厘六毛、永七千九百八十四貫百三四貫貳分六厘

明和六己丑

正月十一日久世政吉様御使者番被蒙 仰、平九郎様と御改名  
正月四日岡部英心院様於岸和田病死、奥様御妹女様二付御忌中、右者十七日申来、若殿様二者日数相立候二付一日御遠慮

○常州江戸崎隅屋忠兵衛御加持二口被下二月十五日

○二月十五日蒔田助之進願之通隠居、倅助之丞へ家督無相違被下

○二月士分以上之者郷土等之倅養子願無用可仕、御家中又者他所二而待分以上之子供相願候様被仰出

○二月廿五日今度半知被仰付候付、江戸勤之面々へ者以刻有勤高被成下

○二月廿八日伊藤半右衛門江戸引越被仰付、四月廿四日引越

二月廿八日、来月廿日御臺様上野御參詣之節法事御取扱御用被蒙仰候

○三月九日以来遠慮閉門仰付候者、家来扶持米も相渡候筈相究  
四月三日勇吉様御儀久世平九郎様御養子二被成度段御願書被差出殿様二も右御届書御差出

四月十七日来辰年、日光 御社參 被仰出右御用懸松平右近將監様被蒙 仰、右二付候テ而者此方二而先格之次第取調候様申来

○四月十九日夜深川御邸高橋平八、土蔵之品衣類等六十餘紛失、御家中吟味之処塩田貴吾長屋二品々有之御用目付二而吟味之上及白状、罫二入置足輕四人付置候処、五月七日之夜罫ヲ破出奔、依之三奉行所へ御届尋之者差出番人足輕八門前払被仰付

○六月五日近畿異変之節出役之物頭、勘定頭、御目付召連之人数行列書付相渡候

六月四日、三田八幡祭礼之節喧嘩一件於依田豊前守様御役宅御裁許有之、細川様衆御咎有之此方出役之者御構無之

同月十七日於千殿御病死、同夜本妙寺へ葬送

○七月四日河原田庄藏家来市助、同人下女とめへ手疵為候二付搦置、発端曲輪へ差遣入牢、下女ハ浅井多内組之者、渡辺葛右衛門妹二付、浅井多内へ御預、御目付二而吟味之処、不義之旨白状、依之市助ハ所追放、下女ハ御家中奉公構兄方へ差戻、右者

男女共於八端郭吟味有之

八月十九日久世平九郎様勇吉様御養子被成度旨御願之通

同月十八日土井大炊頭様京都御所司被蒙仰、右御跡御懸之御用此方様へ御引渡

九月十三日於関宿御用邸女中い祢出産之処、死躰二而御出生有之、

同廿一日い祢病死 山腰左六娘也

同月廿四日前日御連名御奉書到来、御登城之処、於 御座之間大坂

御城代被蒙依之叙四品

御太刀之代ヲ以翌月朔日右御礼被仰上、若殿様雁之間御席被蒙 仰

○同月廿六日富田善右衛門式百石御加増被成下

同月廿七日於松平右京大夫様御宅、大御目付御立合 殿様御役之御誓詞

同月此殿為御祝儀御家中より御熨斗差上候

○伊藤半右衛門十月九日思召有之御役御免、関宿引越不及差扣

十月十一日殿様大坂御着城相濟之節、江戸之御使者亀井清左衛門被仰付

○同月同日於江戸富田善右衛門立歸候御供被仰付、尤彼方片付候

追暫相詰候様大久保沢右衛門儀八大坂引越被仰付、尤御先へ可

相越先へ可相越旨遠山四郎右衛門も立歸御休被仰付

同月十三日殿様御登城処、先達而御願之通金壹万兩御拝借被蒙 仰

右者、松平右近將監様御書付被 仰渡

同月十八日此度大坂御城代被蒙 仰候付二付年中御献上物之儀御伺

書差出候処、是迄之通二而用中繻献上相止、葛粉御献可有之旨御附

札、尤右之葛粉八御役二付御献上之品故大納言様へも御同様

○四月廿一日平手喜内御老中兼帯五十石御加増大坂引越被仰付、

尤大坂御在勤中八加判扶被仰付、十一月二日十郎左衛門卜改

○十一月朔日杉山内記御用人五口御加扶持被成下

○十月、四谷本寿院御祈禱出精二付百石御寄付

(頭註) 御記録二十八日十月五日於御城板倉佐渡守様御伺之通相濟候

旨殿様へ御直々被仰渡之候旨卜アリ

十一月末正月十日過大坂へ御発駕可被成旨御内意御伺之処、御付札

十一月十五日御登城之処此度大坂御城代被蒙 仰候二付、願之通関

宿御城地被差上、御領分之儀者大坂最寄二而御引替可被下候旨御老

中様方御書付ヲ以被仰渡

同月廿一日丹羽十郎右衛門御勘定所へ招呼、今度御領分替二付、関

宿御領分奥州、泉州五ヶ年平均帳差出候様被 仰渡

(頭註)

同月廿三日位記口宣到来、右御頂戴之御使者二俣幸七、副使者松本

灌兵衛守護相越 殿様為御礼御用番板倉佐渡守様へ御出

十二月八日先達而御拝借御上納之儀、於大坂表御返上被成殿段御伺

書被差出候処御伺之通於大坂御蔵へ御返上候様御付札

(頭註)

十二月十五日殿様御登城御奉之鶴御料理御頂戴申候

同月十九日御朱印江戸へ差遣松山内記守護

明和七庚寅 従是以下大坂御用留誌之

正月七日前日御奉書到来、御登城之処、於 御座之間大坂へ之御暇

被蒙 仰

御黒印御下知状御頂戴御刀御時服口御馬、鹿も御拝領 大納言様よ

りも御時服御拝領

御刀銘席次、御黒印八御自身御頂戴

御臺様より御老女様方御奉文ヲ以紅白縮緬五卷御拝領

正月九日殿様四十之御賀御祝

同月九日御拝領之御馬松平右京大夫様より以御使者已被越御馬方之

衆差添相越 殿様二も御玄関へ御出二成、南弥七御手綱取差出候二

付伊十郎受取 御前へ差上御頂戴御馬方之衆へ二汁五菜御料理差出、

御口之者へ二汁四菜右京大夫様御使者御直答紗綾二卷被成下

同月廿一日為御登城御発駕五ツ半時過

同月同日御立後 若殿様御上邸へ御移御届

同月十九日熊之丞様大坂へ御呼被差置度旨御伺書被差出候処御伺之

通



御出立

四月十二日江戸一橋ノ外三番明地是迄此方様御預り之阿部備中守様  
へ御預替二付引渡

○同月同日杉山市太夫病死

五月五日若殿様御登城処、雁間御本席被蒙 仰、他席城主之無城上  
被蒙 仰尤御詰候御登城不及

六月三日殿様より右御礼使者木村勘解由

六月廿日林半平、中山半太夫佐州へ相越廿九ヶ村森対馬守様役人中  
より受取之

○七月十九日遠山四郎右衛門御中老兼帯加判被 仰付

○同月同日川越友右衛門御用人役 被仰付

八月十八日新井伴五郎、河合惣左衛門、河州へ相越小堀數馬様、石  
原清左衛門殿より此度御領地受取之三ヶ村

同月十一日夜九ツ時江戸深川蛤町川岸通より出火、深川御邸御殿向  
御茶屋、御長屋不殘類焼、御土蔵四ヶ所相殘、岩吉殿、七之助殿  
於長殿新堀へ御立退

同月廿一日於大坂女中高安産御女子御出生御届無之、於邦殿と被祿  
九月六日御目付北条左近様、水野彈正様御着、御上屋敷へ御出、殿  
様被蒙 上意

明和八辛卯

八月十九日此度御領分御引替二付、年中献上物之儀左之通御伺書之  
差出候処、九月四日御伺之通

公方様大納言様江正月寒塩鯛 三月塩鴨 土用中葛粉  
十月串海鼠 寒中串鮑

○九月五日富田岩藏執前髪久太夫卜改

九月廿三日久世政吉様奥様御病死

十月十八日殿様御役方之儀二付江戸へ御差扣御伺

十一月二日以宿繼御伺不及其儀旨申来

○同月同日遠山四郎右衛門御勝手懸り於江戸被 仰付

同月七日御縁女於栗様御鉄漿始

○同月十五日富田久太夫御年寄役見習家筋ヲ以筆頭被仰付、年若

二付加判之儀者御用捨、百石御加増被成下候旨於大坂父善右衛  
門へ被仰渡

十二月朔日御拝借之内金千兩当暮御上納可被成之処御勝手向御差支  
二付同年延御願同廿三日御願之通

○同月八日蒔田助之進病死

○泉州納辻米四千四百九十石式斗五升三合式勺、内千九百七石  
七斗九升式合式勺八銀納、外銀壹貫八百石四厘夫銀

○河州納辻米四千六百六十石八斗四升三合、内式千六百五十八石  
五斗七升米納、跡銀納、外米四千九百五十七升六合式勺九才、  
水車運上、山年貢、夫米、夫銀、口米内米式千式石式斗七升三  
合銀納

○佐州納辻米壹万九百三十石四斗九升四合、本途、見取小物成  
共外米三百五十七石九斗九合口米、米七百五十八斗式升七合  
夫米銀合五貫百拾七匁六分九厘三毛、但小物成口銀共

○十二月廿三日富田善右衛門江府へ罷帰被仰付趣同姓久太郎へ申  
渡

○正月十四日田中源左衛門三十石御加増御近習頭於大坂  
○同月十一日於江戸丹羽十郎右衛門御役料十口被下、淺野文治御  
加増廿石合百石

三月廿六日此度御即位二付自大坂御使者池田権左衛門被 仰付  
四月廿七日久世忠右衛門御病死

五月二日御即位献上物、御使者池田権左衛門相勤  
同月十九日久世三四郎様へ御姉女様先達而野一色助七様へ御嫁被来  
処御離縁

○同月廿六日丹羽十郎右衛門妻病乱自害  
○六月廿六日芦田伊十郎病死

七月八日久世忠次郎様御家督  
七月九日御定番丹羽式部少輔様御病死二付玉造御門卜口相成御門

鍵此方様へ御受取

八月朔日安部撰津守様大坂御定番被蒙 仰候旨以宿継申来

八月十三日御加番松平山城守様より御由緒二も有之候付、以来御両敬二被成度旨者仰越御許諾

九月六日御目付渡辺喜右衛門様、建部六右衛門様御着、御上屋敷へ御出、殿様被為蒙 上意

同月五日辰中刻於女中江戸 若殿様女中もよ安産御男子様御出生御届無之、奥原梅之助殿与被祢

十月十日女中みん安産御女子御生御届無之於そよ殿と被祢  
(頭註) 御年譜御記録二八十月朔日トアリ

○同月十五日於大坂平手十郎左衛門御年寄役五十石御加増都合三百石

○同月同日於同所金谷伴六御勝手三役兼新知七十石被下

○同月同日於江戸遠山四郎右衛門御年寄被仰付

十一月十九日安部撰津守様御着坂二付御在坂御役人様方御一同此方へ被為入、撰津守様御持参候 御黒印御下知状御拜見右二付、上使新番頭牧野伝蔵様へ御案内被遣即刻被御出被為蒙 上意

同月同日玉造口御門御開封先達而此方様へ御預之鍵撰津守様衆へ引渡

同月十八日御拝借金上納之儀者当年も御領分早損夥敷御様勝手向必至御差支二付、又候節御年延御願書被差出、同廿六日以御付札御願之通

○十二月廿九日於そよ殿平手十郎左衛門養女被下末々倅左内妻仕候様被仰付拾人扶持御添被下

明和九壬辰 十二月改元安永被

○二月廿八日於大坂桑原傳右衛門新知七十石被下

二月廿九日昼時より江戸芝白銀辺より出火、西南風強、西丸下迄焼、夜二入弥大火相成大名小路神田橋外より筋違橋通下谷辺不殘類焼、然処夜中又々本郷丸山辺より出火、是又及大火候処此方様御邸者四

ケ所無別條

二月晦日丹羽十郎右衛門右御目付小野日向守様へ被召呼、此度松平周防守様御類焼二付、此方様御上屋敷暫之内明候而周防守へ相渡候様被仰渡

三月二日又者丹羽十郎右衛門右御目付池田筑後守様へ被召呼、御上屋敷松平周防守様へ御引渡候様被仰渡候御居邸之外御家作無之候二付不及其儀旨被仰渡 此度大火御老中様方不殘御類焼

三月六日御目付大岡忠四郎様、永田弥左衛門様御着坂御上屋敷へ御出殿様被為蒙 上意

○同月廿三日於大坂瀧兵衛御近習頭公用方兼帯廿石御加増

同月廿五日曉江戸御上屋敷新長屋より手透有之候処、御手勢二而早速消留、右二付 両殿様御差扣御伺被成候処、即日御付札ヲ以不及其儀旨、尤殿様二者御在坂二付御名代久世斧三郎様御伺

○卯歳納辻合米壹万五千六百六十三石六斗壹升四合貳勺、此俵四万五百八十七俵四分貳リ、河州泉州五斗入、作州三斗三升入

○五月十一日朝於江戸 横田与三郎乱心倅鉄蔵へ為手疵負、其身自害

七月十二日久世平九郎様小普請支配被蒙 仰

九月二日申之上刻 熊之丞様御病死、右二付殿様御忌服十日、三十日御定番衆御目付衆へ御届

○御家中鳴物来十一日迄停止、普請八七日、御盃以上之面々同代五日、其以下末々迄三日

同月六日御目付森彦右衛門様、牧野清兵衛様御着坂之処、御忌中二付安部撰津守様へ御寄合、殿様御出席不被成候段大久保沢右衛門御寄合席江罷出御定番へ申上

同月九日夜八ツ時過 熊之丞様御遺骸御兇棺平手喜兵衛御供

同月八日若殿様御忌服二十日、九十日之段御届

同月廿三日森彦右衛門様、牧野清兵衛様御出、殿様被為蒙 上意  
同月廿四日熊之丞様御遺骸品川へ御着棺、翌日御迎川越友右衛門御供本妙寺へ葬送、御法号如法院殿

十月三日田沼主殿頭様へ御而敬之儀被仰合

十一月十五日森山城守様奥様御着帶二付、自奥様御いわた帯被進

同月十六日安永卜改元

同月廿三日久世平九郎様御妾腹御男子御生

十二月廿六日御拝借金壹万両之内千両大坂御蔵へ御上納 此銀六十

四貫五十目

### 安永二癸巳

正月八日久世若水様去十一月上旬よりふ快之有、此節段々御勝不成候二付、殿様御用之御透御見合御下御対面被成度旨御願書御差出

○同月十九日大久保沢右衛門思召有之二付江戸へ被差戻相慎可罷

在旨於平手十郎左衛門宅御目付立合申渡

同月十三日久世若水様御死去、若殿様二も半減之忌服十五日七十五日

同月廿日大坂へ申来、殿様定式之御忌服被為受御定番衆へ御届、先日被差下候、殿様御願書正月十五日江戸へ到着、御間二不合二候得共、於大坂御定番衆へ御届之上御願書被差下候儀二付右之趣一通御用留松平右京大夫様へ御書付留守居中相届

正月廿七日女中ひさ安産於淺殿御出生御届無之

○二月六日田中源左衛門於大坂式千石御加増合百廿石

二月八日去二日付御連名以御奉書実父若水死去之段達、高聞之処可致愁傷旨二為蒙 上意同月二廿五御礼文浅井多内

○同月九日小野田半治廿石御加増合九十石大坂

○同月七日大久保作右衛門於江戸身持ふ埒之段御目付より及言

上、重御役相勤候者ふ届之至是御役被召放半知半減急度遠慮罷在旨横山内規、御目付奥原又治、沢右衛門年々罷越申渡

○辰年御收納米二万四千七百五十八石五斗一升式合式勺、高二四ツ、式ツ、四厘余此俵六万二千六百六十式俵五分四四毛、但河州泉五斗入、佐州三斗三升、三斗入、銀合拾貫百九十三兩六分三リ二毛

三月六日御目付水野清六様、岡部兵部様御着、当時殿様御膝中二付御定番様二而御寄合

同月十三日殿様御忌明御出勤

三月六日去四月廿四日於岸和田岡部於政殿御死去之段江戸へ申来、若殿様御母方御叔母様二付一日御遠慮

同月廿九日御加番土方近江守様より御而敬之儀被仰込候処御許諾是

八田沼主殿頭様御統

○四月十八日夜江戸新堀大久保沢右衛門家内召連出奔二付奉行へ御届下目付並足輕兩人衆差出

四月晦日土井遠江守様御病死、五月六日大坂へ申来、殿様半減之忌服為受、若殿様御同

五月廿八日於邦殿御病死、翌日夕願寺へ葬送

七月廿九日御加番本多伊賀守様より松平肥前守様御統ヲ以而敬被仰込御許諾

○高柳兵庫於大坂被召抱御用人格被仰被新知五百石被下御勝手向一式引受世話可仕旨被 仰付

九月六日御目付小出丹玄、神尾内記様御着、御上邸へ御出、殿様被為蒙 上意

○九月十九日富田久太夫加判被仰付、杉山内記御年寄役於江戸被仰付

○同月十五日蒔田助之丞御用令仰付

九月廿五日殿様当年御城入より四年目二付去為伺 御機嫌御參府之儀十月頃御同被成哉候旨松平右近將監様、田沼主殿頭様へ御内意御使者杉山内記相務候御先格も有之儀御伺可然旨御答被仰出

○十月十一日於江戸遠山四郎右衛門御役召放知行之内百石被百石

○同月同日山崎久左衛門知行被召上水野弥五郎へ御預 右者病氣二付近行歩行願度候内於他行先不法之次第共有之御名も出不届

十一月十六日前日若殿様へ御奉書到来 公方様御対面之十五 鳥料理今日御頂戴



○同月同日山路義藏者同様二付久左衛門同様二も可被仰処御先代之御由緒も有之家之事二候得者 以御慈悲勤方被召放半知被減蟄居被仰付祖母方へ家名者御立可被仰候間親類相統相談之上相応之旨養子可相願可旨仰付

○同月日杉山内記又之名市大夫と相改

十一月十一日高柳兵庫御年寄被仰付 加判無之

十二月五日女中里御安産鉄之助殿御生御届無之

(頭註) 十二月十八日若殿様二付女中出産於寄殿御生

十二月十九日殿様御伺書之内書損有之御差控御伺 同月廿六日御拝

借銀之内六拾四貫五丁目御上納

安永三年申

正月二日御差控不及其儀旨宿継申来

正月廿一日旧曆十八日 若殿様二付女中もよ安産御女中御出生之旨申来於寄殿被祢

○二月十五日於大阪平手左内御用人役五口加持扶掖下

二月廿一日明日殿様為御參府御発駕被成二付所々御鍵御定番衆へ引渡

渡

二月廿二日六半時御発駕御供富田善右衛門

三月四日殿様実母方御祖父松平肥前守様當時御小姓頭取御死去二付

半減之御忌服十日 四十五日

同月四日殿様御道中無滞江戸御上邸へ御着 御不快二付御届申上御

廻勤無之 品川馱迄為御迎蒔田助之丞罷出

同月六日御目付荒木十左衛門様 本間十右衛門娘御着

四月廿一日於淺殿、鉄之助殿江戸へ御出立

同月十九日殿様御出勤御老中様方御廻勤

同月廿八日前日御連名御奉書到来 御登城於御座之間御參府之御礼

被仰上候 御太刀一腰、御馬一匹代黄金千両、染革三十枚老箱、西

御丸へ同断染革二十枚御内献上色唐紙二笠二千枚、西御丸へ同断一

箱千枚二献上 御本丸江御内々献上御屏風一枚

同月廿五日鹿野伴藏去三月日於江戸吉川町往還銚子無宿入墨松之助二金子盜被取 同類大坂無宿新藏ヲ捕宅へ連歸候上者主人へ可申立処無其儀内々二而金子取戻遣候段ふ埒二付町奉行北淵甲斐守様御役宅へ丹羽十郎右衛門同道被召押込被仰付候段松平右京大夫様御差図之旨被仰渡 六月廿五日御免

同月同日右一件二付、殿様御差扣御伺翌日不及被成

○同月廿八日於江戸高柳兵庫病氣二付願之通永々御暇被下

六月三日殿様御逗留日数も相立候二付、御暇御願可被成処御不快二

付

八月中旬頃迄御滞府被保養被成度旨以御側書御用書可差出候処、翌

日御付札ヲ御伺之通

六月十三日殿様御願書松平右近將監様へ御直々御持参二差出候、右

者佐州御領地不殘被差上相応之御城地御拜領可成度旨並関宿御領関

宿城地可下候者、當時廢地同様相成士邸等も過半御取壊相成候趣二

付御拜借金御願被成殿御内々御聞置被下候様二卜被仰談

同月廿三日来ノ上刻より大坂大風雨御邸共破損

○七月十六日於江府富田善右衛門御役被召放

八月朔日口殿御病死申ノ下刻

(頭註) 御系譜而八、二トアリ

同月三日殿様御役所へ之御暇願之通

同月七日木曾路御旅行御願昨日御願之通

同月十三日前日御連名御奉書到来御登城之所於御座之間総州関宿御

城地御拜領畢而於御黒書院松平右近將監様出府御渡 是者関宿土屋

敷取崩候処も有之二付金五千兩拜借被仰付並作州御領知被召上候旨

八月十五日右御礼被仰上之御太刀、紗綾五卷御口口代貫金十兩西御

丸同断紗綾御献上無之右之通被献之

同月十九日酒井飛騨守様兩敬被仰合

同月廿四日前日御奉書到来御登城之処、於御座之間御態之、上意之

上大坂へ之御暇被蒙 仰御馬並御時服二十兩西丸より同五御拜領

○同月廿一日於江戸川越友右衛門年寄役五十石御加増被下

○六月改三郎御領分人別三万四千七百三十六人

同月廿五日松平右京大夫様より御拝領御馬來、御儀式前之通御馬吉岡前髮立七才一寸五分

同月同日津田日向守様今日御兩敬被向合

九月三日殿様於御屋敷江戸衆中之面々ふ殘御目見被仰 仰付年来困窮之処取統相勤御満足 思召被旨 御意有之

○同月同日木村季冠再年寄役御勝手掛被 仰付六十扶持被下

席順筆頭富田久太夫次席 正右衛門被改名被 仰付

九月九日御目付成瀬吉右衛門様、松平次郎兵衛大坂御着

同月十一日殿様為二登坂御発駕

○同月同日曉江戸水野弥五右衛門へ御預ケ置候山路久左衛門圍ヲ

破出奔三奉行へ御届尋候処差出

同月十二日於江戸女中もん安産雄藏殿御生御届無之

同月十三日万石二付千俵ツツ初囲置候様御達有之

同月廿四日殿様御中邸へ御着坂鉄之助殿御一緒

同月廿五日殿様今日御城入二付追手御門御開封御定番衆より所々御鍵御引渡御城入畢右御役人衆へ 殿様 上意御慎達

○同月廿日於江戸富田善右衛門病死二付葬法之儀夜二入取斗尤遠

慮中二付親類伊東千之充殿世話候様申渡右二付 欠損 も御門

外へ差出候様並富田久太夫養母殿二而七日七日寺へ代拜之家来

差遣候相願候間是又勝手次第之旨申渡

十月七日関宿御城堀田相模守様衆より受取之松山市太夫、川越右衛門相務御目付奥津左京様、宅間伊織様御代官小林孫四郎殿、去月廿

日於御勘定所今日引渡同村帳御渡

一高合四万三百六十八石八斗八升八合壹勺

下総国 葛飾郡之内 三十力村

下野国 猿島郡之内 四十八力村

下野国 都賀郡之内 拾九力村

常陸国 筑波郡之内 三ヶ村

信太郡之内 五ヶ村

後内五万三千式石八斗八升式合式勺壹才 改書新田

前内三万三千五百九斗三升四合四勺 代知

内式三千三百廿九石八斗六升式合四勺 込高

○十月口日於江戸水野弥五郎御門前払、所持之武具類欠所被仰

付家財者妻子へ被下、父子系へ以御慈悲金五兩被下

十月十三日小林孫四郎殿分関宿御領地夏秋成金高二千五百五拾三兩式

分式朱御渡

同月同日此度関宿御拝領二付向後献上物先規之通御伺御差出御伺之

通

○十月十八日富田善右衛門父子川越友右衛門宅へ呼出遠慮御免早

速関宿へ引越可申旨申渡

○同月廿一日於江戸荒堀喜又、元勘定頭へ復役二重石御加増被

下

同月七日佐洲御領分三万三千石餘野村彦右衛門殿、万年七郎右衛門

殿へ引渡金谷伴六、中田彦五郎

○十一月廿三日於江戸加藤甚十郎御用人見習被仰付

○同月廿二日於関宿新井判五郎新知百石関宿引越被仰付

十一月廿八日雄藏殿御着坂

同月廿六日一万兩御拝借之内千兩此銀六十四貫五拾目御上納

從是以下以関宿御用留記之

○正月十一日丹羽十郎右衛門御用人役御留守居役御無帯被仰付御

役高五戰石被下

○同月廿五日泉州陣屋之面々引払 御陣屋御郷中へ御願

○於同月廿九日夜江戸深川滝沢清吉、小野田半助宅へ踏込為手疵

負候二付吟味懸小島弥兵衛、原多四郎被仰付、右者清吉儀井上

仁兵衛可被申付、右之仕合之由白状依之清吉、仁兵衛兩人共圍

入置

○二月朔日於大坂木下此右衛門御用人役公用方益十郎御役高

三月六日大坂御目付安部平吉様、竹中彦八郎様御着坂、殿様被為蒙

上意

○三月二日富田善右衛門願之通隱居家督久大夫へ無相違被下

○同月廿六日御家中之向者未々迄御城へ召出今度御勝手向御趣法替之者出府ヲ以申渡於江戸 大坂同断申渡

○四月六日御家中召仕人数書付相渡

○四月十三日御家中厄介向地へ差遣候ハバ其前日先規之通置証文可相願旨申渡

○同月廿一日滝沢清吉、井上仁兵衛御門前払、士二以合仕方二付  
仏具二八欠所被仰付、家財八家内へ被下 小野田半助同断御門前払被仰付

○五月三日於江戸堀又兵衛、望月太兵衛新知七十石御近習頭書札方兼帯被仰付

○同月同日蒔田助之進御用人兼帯江戸勝手小嶋弥兵衛御用人被仰付  
付関宿引越六月廿九日御移

五月廿三日水野出羽守様御両敬 仰合

○六月廿与力三日青山百人組、山岡清兵衛母榮松院病死領氷様御実母二付御忌服御受

○七月廿五日水一丈七尺

七月本多淡路守様より御両敬被 仰付

○八月八日泰姫様御引取之儀来年と被仰合候処、右近將監様日光社御用懸取込二御婚姻御整被成候処、右二付二而八御約束無之候共御当日御入用可遊旨被仰越無之処、当年御口口口取二相決

候依之御家中之面々困窮二毛可有之候得共百石二金老両ツツ右御入用として可差上哉、尤強而仰付可申次第二八無之段申渡候

処、何も御受申上百国以下之面々二も割合ヲ以少々宛差上度依願差上、右二付別段御役料上物八無之筈

八月六日松平右近將監様へ丹羽十郎右衛門被召呼来年日光御社參二付、若殿様来春御暇可被下候、御社參相濟候迄御在城被成候様御連

名折懸御奉公御渡早速大坂可差遣

○同月十四日実相院様当十八日二十七回御忌二付山路儀藏御由緒

も有之者故蟄居御免

九月六日大坂御目付朽木鞠負様、本多功右衛門様御着坂二付、殿様被付 殿様被為蒙 上意

同月廿七日御朱印関宿到着 木村正右衛門守護相越

十月五日去日久世三四郎様御安産、御男子様御出生御名此方様より被進泰三郎様と奉称

同月同日於大坂安倍撰津守明日為御參府御発駕二付御預候鍵此方様へ御引渡

同月廿三日岩吉殿、七之助殿関宿へ御引越  
十一月廿三日雄之助殿御同様

○十一月廿八日戸田因幡守様御内大塚兵衛門へ御婚姻諸礼御願  
十二月三日久世平九郎様長崎御奉行被蒙 仰

同月九日より泰姫様御道具出来

同月十五日泰姫様御引取二付、今朝御結納御使者川越友右衛門相勤、御帯代白銀十枚、こん婦一折、麦類め一折五連、塩鯛一折、屋なきたる一荷進之

同月同日泰姫様未ノ刻過、御入輿御供尾関圖書 白銀二枚被下

同月廿一日就吉辰御婚姻御整御近親方御招

同月廿三日朝六時明子餅御取交御使者丹羽十郎右衛門様より伊藤七左衛門

同月同日若殿様為御簪入昼時より右近様御出御新造為御里披 朝五ツ時御出 右近様より若殿様へ御刀一腰行光披進候、木村正右衛門、川越友右衛門御料理長打縮緬二卷ツツ右近様より被下、御新造様御

供二八蒔田助之丞罷越候処同御目録被下

○十二月廿六日今度諸役所下り之為会所中へ御目付役所出来  
十二月廿七日九半時為御鼠入松平右近將監様同主計頭様御出、若殿様敷出迄御出向、於御小書院、若殿様御自身御熨斗被進候 御一方

様御大刀、馬代御持參右近様御家来松倉数馬、尾関圖書費召呼、二汁七菜御料理被下 数馬へ縮緬二卷、圖書へ紗綾二卷被下、宮川左仲、太那波牧殿へ銀二枚可被下

閏十二月朔日御婚姻御礼、殿様御名代 若殿様被仰上 公方様へ紗綾三卷 大納言様へ白銀三枚

○同月二日右近様御役人奥家老川嶋忠五左衛門へ五口被下

同月七日久世平九郎様御官名御頼二丹後守様与被進

同月廿二日松平右近将監様へ丹羽十郎右衛門被召呼 御社参二付若殿様御在城被蒙 仰候二付是迄御拜借金御上納御年延被 仰出

○同月同日関宿二而以来出火之節御領分組付人足之定

一前々より両御門二而組呉々村々へ相渡候小幟相止兼而村々へハ御物頭之纏角印伴なしの白地二紺二而染御広間水子印ハ紺地二

白ク波之模様染付、右之小印木綿沓巾二長サ式尺程二いたし、

前々より村々持来候村名銘々二染付候

幟者右之小印付渡置勿論其村之役人共へ右角襟之小印ハ御物頭

纏へ差添 水手へ付候村々へハ波之小印見合其印差添而御門へ

寄不申直二火事場へ相談候事

一是迄両御門へ罷出候御代官会所見習並手代共一ヶ所兩人ツツ罷

在候処相止御物頭火之番へ御代官一人見習一人并御広間水手へ

も右同段付添相働候事

一御物頭火之番へ付候村数十六ヶ村、水ノ手御広間へ拾四ヶ村村

付相働候事

一御物頭火之番へ付候村数十六ヶ村水ノ手御広間へ拾四ヶ村村付相

働候事

安永五丙申

○正月十一日以来御鏡頂戴生餅二被成下 神酒一詰頂戴候

○同月十六日以来御先手足輕拾五人組相定

正月十七日以来於長殿御儀様と称 (御記録二ハ二月六日トアリ)

二月朔日井上河内守御両敬被仰合候

三月十五日若殿様御社参中 御暇被蒙仰

○同月十九日富田久太夫依願外記卜改

同月六日大坂御目付大森半七郎様 鈴木弥五右衛門様御着 殿様

被為蒙 上意

四月三日申ノ下刻 若殿様御城着御丹羽十郎右衛門

四月五日若殿様町方并長井戸辺御巡見

同月九日大久保伊豆守様御通 境町御休へ塩鴨一品可進上候

同月十日戸田采女正様 正右衛門罷出境町御休へ干鰹鮓一籠

同月同日酒井左衛門慰様

同月同日青山下野守様 江戸町御泊へ干鰹鮓一籠

同月十一日榊原式部太夫様 正右衛門罷出塩鴨一籠

同月同日松平伊豫守様 塩鴨一籠

同月同日奥平大膳太夫様

同月同日杉山市太夫千駄塚村へ罷越相詰

同月十二日堀団七、元栗橋村へ相詰

同月同日松平能登守様、内藤紀伊守様、植松出羽守様御通 能登守

様、紀伊守様へハ御休伯へ干鰹鮓一籠ツツ

同月十四日古河御宿城江御使者丹羽十郎右衛門 同十九日同断

同月同日井伊掃部頭様御通 外記罷出境町御休へ杖梯一箱

同月十三日四ツ時 公方様江戸御発輿

同月廿日井伊掃部頭様、松平伊豫頭様御下山御通 外記罷出 御休

伯へ干鰹鮓一籠

四月廿一日戸田采女正様御下山 境町御泊へ塩鴨一籠

同月同日松平能登守様

同月同日八半時過 還 御

同月廿二日夜九半時 若殿様発駕供前二同

同月同日内藤紀伊守様御下山御通 境町御泊

五月朔日若殿様御帰府之御目見

同月十三日若殿様御社参濟御祝儀御能御拜見

同月十八日久世三四郎様奥様御病死

八月廿九日殿様御名代若殿様御登城、於浅殿御儀大久保荒之助様御

嫡甚太郎様へ御縁組御願之通、以来様与称

同月廿二日久世勇吉様初而 御目見

同月十六日於大坂松平丹後守様御兩敬被仰合

九月六日大坂御目付堀田内膳様、沼間頼母様御着坂、殿様二而蒙上意

○同月廿二日山田惣右衛門於大坂御近習頭書札方兼新知八十石被下

九月廿五日於大坂松平石見守様、内藤丹後守以来御兩敬被仰込御許諾

○十一月三日夜関宿江戸町四郎左衛門火元二而大火六七軒類焼(頭註)十一月十四日当四月殿様御在城被成候二付、当暮御拝借御上

納御年延 被蒙 仰

十月廿九日於大坂青木甲斐守様御兩敬被仰込御許諾

○十一月廿六日木村正右衛門段々老衰二付勝手掛り一人二而八無覺束旨、依願川越友右衛門御勝手懸被仰付於江戸

安永六丁酉 関宿御記録無之

○加藤甚十郎御用人本役人被 仰付

○同月 猿島郡大谷口泉福寺一件 公儀江御呼出

正月廿二日公方様御厄御前年二付、山王觀理院御祈禱御頼銀三枚被遣候

同月十一日岩吉殿、鉄之助殿、雄藏殿御丈夫御届以来久世之御称号様卜奉称七之助殿御同様

二月廿日戸田玄蕃様御旧縁二付御兩敬被 仰合

三月六日大坂御目付野一色頼母様、古那弥太夫様御着坂 殿様被為蒙上意

○四月七日於江戸今関半平乱心自害

四月朔日殿様泉州境辺御巡見

○同月廿八日木村正右衛門老衰二付、依願隠居五人扶持被下

○六月三日出水壺丈七尺

○同月朔日蒔田助之丞御年寄役於江戸被仰付

○同月三日先達而入沢猪右衛門奉願、荻野流鉄砲為稽古登坂、今

日砲術皆伝、堺七堂ヶ浜大筒下打有之見分之者被遣候

七月廿九日於淺様大久保荒之助殿へ御引越

九月三日御新造様御袖留御着帯

八月廿五日大坂表へ宿繼御連名御奉書到来、殿様御用之儀有之付可被御参府旨御端書二六七日之支度二而可有発足 道中不差急供廻小勢被召連旨

九月朔日大坂御発駕御供平手左内

同月十三日品川御泊御着、翌日直二御用番松平周防守様へ御出、其外御廻勤

同月十五日御奉書到来登城候処、於御座之間京都御所司代被蒙仰被任侍從

十月朔日右御礼以御太刀、馬代被仰上之 御年譜二八金馬代トアリ(頭註)九月十八日於松平周防守様御宅 殿様御役之御誓詞

九月廿三日公用方於大坂安部撰津守様被召呼 殿様御伝役二付、御城内引払候様御直被仰渡、平手十郎左衛門罷出、殿様御隠符受取之、御殿向諸番所御定番衆引渡御人数八中郎へ引取

十月六日殿様大坂へ御立寄無之、直二御京着、御伺之通

同月十一日青山下野守様より御兩敬被仰合

同月十九日御奉書到来御登 城、於御座之間京都江之暇被蒙仰御刀左定行代金廿枚 一腰黄金貳拾枚御時服五、御馬一匹、御羽織一、大納言様より御時服五、御羽織一御拝領

同月十五日松平右京大夫様へ御兩敬被仰合

同月二日御願之通金壺万両御拝借被蒙仰

十一月六日明日御発駕二付 御目見

十一月廿七日今年分御上納金御年延御伺之通

十一月七日午中刻江戸御発駕御供川越友右衛門

十月廿三日京都御邸御組与力より引渡有之、平手十郎左衛門罷越受取候

十月廿九日於久我大納言様御亭、口宣御渡御使者森理助奉受取之

十一月八日鉄之助様、京へ御引越、同十日雄藏様同

同月十五日大坂御邸牧野越中守様衆へ引渡平手左内  
同月廿二日朝六時半時殿様御京着、松平周防守様御旅館へ御出、御目  
道二而御城入

○十月三日再泉州へ御代官共引越被仰付、中村与左衛門、和田安  
兵衛

同月廿五日殿様初而御参内被拜 龍顔 天盃御頂戴 仙洞様へ御院  
参女院様、新女院様 女御様へ被成御出

右御参内前施薬院へ御出被成御装束畢而両傳奏様、院傳奏様、四辻  
様関白へ御出之節八御長上下 禁裏へ御大刀一腰 綿三把代黄金十  
両、御馬一匹御遣獸其外御所方へ遣獸品々々

(頭註) 御年譜二八禁裏へ御大刀一腰、御馬代金一枚、綿百把仙  
洞へ同断銀一枚、蠟燭三百挺卜アリ

十二月六日酉上刻 御新造様御安産御女子様御出生、御医師橘隆  
庵様御出、右近将監様より御名被進、良姫様与奉称、御篋刀富田  
外記、御臺目蒔田助之進相務

十一月晦日京千本御邸足輕小屋より出火二付御差扣御伺書十二月  
十日於江戸被差出候処不及其儀旨被仰出

### 安永七戌戌

○正月十一日江戸二俣与七御役高廿石御加増被下

○同月十五日丹羽十郎左衛門役高五十石本高御直合式百石

旧口十二月廿三日於京女中かよ安産嘉十郎殿御生 御系譜二八  
廿二日

正月朔日殿様可被御登城御不快二而御延引、於大書院御客様方御  
対面、諸家御留守居御組与力御目見、御広間廊下通御組同心御通  
懸御目見畢而、又々大書院へ御出、御家中之面々御礼被為受候

同月二日施薬院へ御出、御装束、夫々御参内畢而、御所方へ御参  
内 殿、御在京中例年傲之

○正月十一日於京平手十郎左衛門御譜代並被仰付

○同月同日同木下源助(欠) 石御加増

二月十二日昼八半時江戸石町四丁目より出火、北新堀御邸類焼、  
御殿御長屋不残焼失、御土蔵八相残、領永様者深川へ御立退

○同月十五日於京平手十郎左衛門御勝手働被仰付  
三月五日大坂助様、御目付大嶋内蔵谷主計様御京着 殿様被為蒙  
上意

四月十四日奥様二月中より御病氣之処、段々不被成御勝、御中風  
之御様子二而差重、今戌中御逝去、紀原雲伯様、森宗乙様、橘隆  
庵様御葉普請御初七日迄鳴物八二七日迄、御用人以上奥様付御徒  
目付以上月代御二七日迄表向小役人以上御発七日迄、其以下来十  
九日迄

同月廿日京都以御奉書奥様御不弔二付被為蒙 御尋之上意

同月廿九日御葬送御供蒔田助之進、丹羽十郎右衛門、若殿様北御  
門内迄御見送、夫より御駕二而御供被遊

同月廿八日京へ宿繼御奉書ヲ以御着 御免

六月日奥様御日取之儀、十三日二相極候趣被仰出

○七月三日以来足輕組目付共十四人被相極

○御治又閏七月朔日奥原譜代並被仰付、元卜勘定頭兼帯

八月二日大潮二而深川御邸宅へ水押上、領永様新堀江御立退同三日  
御帰

同月土井能登守様御登坂二付、岩吉様仮養子

同月五日久世丹後守様御三男又吉様、菅沼和泉守様御願置之通御養  
子

同月廿五日新堀御殿出来 領永様御移徒

○同月廿八日杉山市太夫御勝手懸被仰付

○同月十九日狩谷三右衛門家督二付二百石被下隠居茂口十口被  
下

十月十五日以來御新造様御儀 奥様与奉称

十一月廿一日菅沼又吉様御兩敬被 仰合

十二月朔日奥様御着帯

同月七日禁裏御茶口切二付 殿様御出内御拝顔、御料理御頂戴

同月廿八日御上納金貳千五百兩大坂御藏へ泉州御代官共より上納

安永八亥巳

正月九日辰中刻 奥様御安産御女子様御出生、美吉様与奉称、御墓  
目川越友右衛門、御篋蒔田助之進

安永九子庚

正月廿三日殿様五十之御賀於京御祝 (頭註) 御年譜、御記録廿一日トアリ

○同月廿一日於京金子軍太夫新知七十石被下  
同月廿四日於京 女御様御安産姫宮様御隆誕依之 殿様より二種一  
荷御産一重御進獻

二月十四日大納言様去、奉号孝恭子院殿

同月二日殿様六角越前守様同道御参内 天盃御頂戴

五月三日井伊兵部少輔様御両敬被 仰合

同月同日於京女中里き安産御女子御出生御届無之、於牧殿与被称

○七月十五日於納谷千納間堤丁打有

六月十八日殿様横瀬駿河守様御同道御参内 天盃御頂戴

○七月廿五日出水一丈七尺式寸八分、同八月廿四日一丈八尺五寸五分

七月廿五日亥中刻松平右近将監様御逝去

八月五日此度 准后 宣下為御祝儀関東より御進物、御使者 殿様御勤 天盃御頂戴

同月廿三日久世主水様奥様御安産御男子御生

九月廿三日殿様為御名代 若殿様御登城之処、御勝手御難渋之儀二付以格別之思召、御拝借金当冬御上納之分御差延被蒙 仰

同月九日大坂御目付本間十左衛門様、瀬名伝右衛門様、御京着殿様被為蒙 上意

十月六日土井能登守様御暇二付定吉様御仮養子

九月廿三日於京女中里り安産御男子御出生、出生御届無之、文九郎殿与被称

十月十七日於京御方料御証文下書二損有之、殿様以相繼差扣御伺不及之儀旨被仰出

十一月九日寅刻 崩御御不例中 殿様日々御参内

十二月十日後桃園院様御葬送、泉湧寺迄殿様供奉  
同月十三日泉湧寺饅頭一箱、御花、御茶進獻

安永九子庚

正月廿三日殿様五十之御賀於京御祝 (頭註) 御年譜、御記録廿一日トアリ

○二月廿二日田辺大五郎、於玉井七郎宅、大久保順次へ為負手疵出奔

二月二日殿様御踐祚御祝儀上使吉良右京大夫御参内 天盃御頂戴

同月同日万里小路御邸出火二付、殿様御出馬御参内

○三月十一日御家中無役席順今度書付目付相渡

同月十五日殿様上使有馬兵部大輔様御同道御参内 天盃御頂戴

三月五日大阪御目付跡部兵部様、松野八郎兵様御京着 殿様被為蒙上意

同月廿五日後桃園院様為御遺物御掛物一幅、花瓶一、御花台一御拝領、御使沢村筑前守

同月廿七日嘉十郎殿、父九郎殿為関宿御引越御免駕籠

四月十一日嘉十郎殿、文九郎殿江戸へ御着、同十五日関宿へ御着

○同月廿日御中小性以上之面々御衆中小役人娘ヲ下女二至置、妻二取立候願、取上不申候、並小役人共召仕候下女ヲ妻二相願之儀小賄以上為相願、其以下八不承届候於京一月廿八日申渡

同月廿六日上野 孝恭院様御廟所銅焼籠一基御獻備

○六月廿一日出水式文、吉羽村堤押切

○同月廿三日上野兵衛病乱自害

六月十三日夜於京女中里き安産御女子御出生御届無之 於鉄殿与被称

七月廿五日殿様為御名代 若殿様御登城之処、御大礼打統其上八領分出水二付五千兩御拝借被蒙 仰

○九月十九日雄之助殿御実母もよ病死

(頭註) 九月廿一日去十日於岸和田岡部万隅御死去之旨申来、若殿

○九月十九日雄之助殿御実母もよ病死

(頭註) 九月廿一日去十日於岸和田岡部万隅御死去之旨申来、若殿

様御母方御従弟也御日数相立候二付一日御遠慮

十月四日此度公方様御転任二付上使井伊玄蕃頭守、高家六角越前守様、殿様御同道御参内御拝顔 天盃御頂戴

十月六日御転任為御祝儀 殿様御時服拾御拝領井伊玄蕃頭様より御渡玄蕃頭様今日御招談 白木具三汁十菜御料理被差出其外御客様有之

同月十一日殿様井伊玄蕃頭様、六角越前守様御同道御参内御拝顔、絹五包御頂戴

同月十八日殿様御所被為召御参内先達而清涼殿御修覆出来二付、御目見真大刀一腰、銘利助 三十六歌仙御手鑑並御料理御頂戴 (頭註) 御系譜二八清涼殿並常々御殿卜有之

十一月廿八日殿様為御名代、若殿様御登城之処、御拝借金当冬御上納分御年延被蒙 仰 (頭註) 御年譜御記録二八廿九日卜アル

十二月四日御即位、從 禁裏三種式荷御拝領  
同月廿六日殿様来秋為御機嫌御伺御参府被成度御伺之通

【参考文献】

『国史大辞典』(一九九五年)吉川弘文館

稲垣史生編『三田村鳶魚江戸武家事典』青蛙房(一九八六)

別冊歴史読本『江戸時代考証総覧』新人物往来社(一九九四)

別冊歴史読本『大江戸おもしろ役人役職読本』新人物往来社(一九九四)

(客員研究員)